

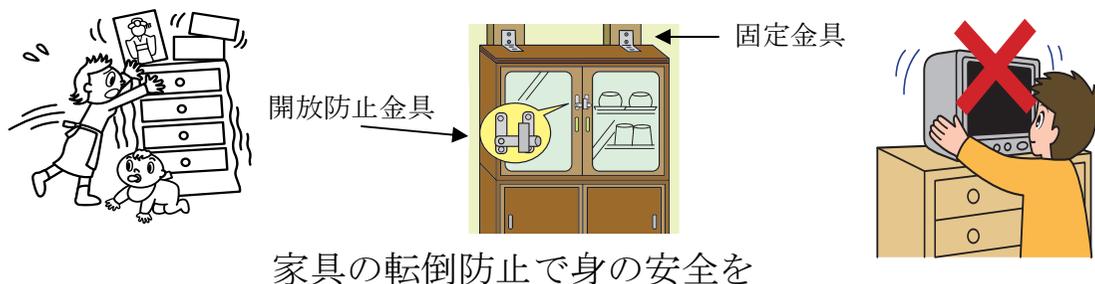


大震災への備えは大丈夫ですか、まず身の安全を！

関東大震災は88年前・阪神淡路大震災は17年前、1年前には津波と原子力発電所の事故で大きな被害をもたらした東日本大震災が起きました。

東京湾北部を震源とする首都直下型地震は、これまで予測していた震度より揺れの大きい「震度7」になる可能性があるとして文部科学省のプロジェクトチームが発表しました。(朝日新聞2月21日)

政府の地震調査研究推進本部が、地震発生確率を見直し三陸沖北部～房総沖の海溝よりで、M9.0級の地震が30%の確率で起こる。南関東地震M7.0級が70%、東海地震M8.0級が87%等と発生確率が高まったとしています。



家具の転倒防止で身の安全を

習志野台団地では、建物は倒壊しないが、家具などが倒れてその下敷きになる人やガラスの破片で怪我をする人などが予想されます。

室内で怪我をしたり、命を失うようなことがないように、家具の転倒防止をしっかりすることが大切です。

通常の場合は、鴨居などにL型金具などを使って固定しますが、団地の場合は、鴨居そのものに強度がないので、先ず鴨居そのものをアンカーボルトなどで固定してからL型金具などで家具を固定します。

施行については、管理サービス事務所に「模様替え申請」を出せば、退去時の原状回復義務がありません。有料ですがJ Sや千葉土建などの業者に依頼も出来ます。

食器棚などは固定すると、中の食器類が飛び出しやすくなります。食器の乗っている棚板に滑り止めを敷く、扉にストッパーを取り付けるなどの工夫が必要です。また、ガラスが飛び散らないように、食器棚のガラス扉にフィルムを貼りつけるのも有効です。

出入り口の安全確保を

地震の際、安全に避難するための通路を確保しておくことが大切です。普段から、出入り口や通路に余分な物を置かないようにしましょう。

強い揺れでドアがゆがむことがあります。揺れがおさまったら出入り口の安全を確保しておきましょう。

建物が倒壊する可能性は少ないので、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。



水と食料3日間の備蓄をしましょう

地震の被害が大きくなると、船橋市からの「公的支援は」すぐには望めません。最低限、水と食料3日分や医薬品などの準備が必要です。

船橋市の防災訓練の際、習台第二小学校の備蓄倉庫を見学しましたが、備蓄品の種類や数も少なく、あまり期待できないことがわかりました。

又、昨年の震災時に団地の一部で「計画停電」があり、「電気のない」貴重な経験しました。

電気・ガス・水道などライフラインが止まった場合に、どのような備えが必要なのかそれぞれ良く考えて準備しておきましょう。

最低限の非常持ち出品（船橋市防災対策総合ガイドより）



- ◎懐中電灯（予備電池）◎携帯ラジオ ◎貴重品（現金・預金通帳・印鑑）
- ◎健康保険証 ◎救急箱（常備薬など忘れずに）◎乳幼児用のミルク
- ◎ヘルメット・下着・タオル・ティッシュペーパー・軍手・ライター（マッチ）
- 缶切り・栓抜き・ナイフ・ビニールシート
- ☆あると便利なもの固形燃料、卓上コンロ、携帯トイレ、使い捨てカイロ